1　国語

学校番号	3020

令和２年度　国語科

教科	国語科	科目	古典Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「高等学校古典Ｂ　古文編・漢文編」（三省堂）						
副教材等	「読んで見て覚える　重要古文単語３１５　三訂版」（桐原書店） 「新精選　古典文法　改訂版」（東京書籍） 「必携　新明説漢文」（尚文出版） 「古典　センター試験国語過去問題　平成２２年～３１年」（尚文出版）						

1 担当者からのメッセージ

・これまでの２年間で身につけてきた古文、漢文の知識をもとに、古典を「読む能力」を向上させるとともに、古典世界の広がりを味わう力を養っていきます。
・古典を原文で読むことで、先人たちの思想、感情に直接触れることができます。そこで得た古典の世界観を、自分自身の人生の糧とし、豊かで幅広い知性と感性を手に入れてください。
・古典を正しく読むためには、語彙力、文法力が必要です。１、２年生で学んだ基礎知識を確かなものにし、その知識を文章の読解につなげていきましょう。
・授業の予習、復習にはしっかりと取り組み、理解できるところ、できないところを自覚してください。また、できないところは放置せず、主体的に学習してください。
・授業では、センター試験の過去問題も扱いますが、点数に一喜一憂するのではなく、不正解であったところを自分の弱点と捉え、その克服に努めてください。

2 学習の到達目標

・古典を自分自身の力で読んで思想や感情を的確にとらえ、作品の価値について考察することができる。
・伝統的な言語文化に対して広くかつ深い関心を持ち、国語を尊重する態度を育んでいる。
・古典に親しむことによって、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、人生を豊かにすることができる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。
主たる評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート、ワークシート等）			記述の確認及び分析（ワークシート） 定期考査	行動の観察 記述の確認 （ノート、ワークシート等） 定期考査 小テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。					

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1学期	古文編第一部 物語一	教材: 『堤中納言物語』 「虫めづる姫君」	○			◎	○	a:物語の展開を理解し、登場人物の心情を読み取ろうとしている。 d:主人公の行動と心情を読み取るとともに、他の登場人物の言動の意図を理解している。 e:形の上で紛らわしい語を文法的に識別できている。	a:行動の観察 記述の点検 d:記述の確認及び分析 定期考査 e:定期考査 小テスト
	古文編第一部 日記	教材: 『大鏡』 「肝試し」	○			◎	○	a:登場人物の境遇を読み取るとともに、歴史物語の特徴を理解しようとしている。 d:登場人物の人間関係や心情を読み取っている。 e: 形の上で紛らわしい語を文法的に識別できている。 敬語についての知識を確かなものにしている。	
	古文編第二部 随筆	教材: 『枕草子』 「頭の弁の、職に参り給ひて」 「宮に初めて参りたるころ」	○			◎	○	a:内容を踏まえて筆者の考え方や当時の宮廷生活を理解しようとしている。 d:筆者の美意識や機知を読み取っている。 e:形の上で紛らわしい語を文法的に識別できている。	a:行動の観察 記述の点検 d:記述の確認及び分析 定期考査 e:記述の確認 定期考査
	漢文編第二部 小説	教材: 『人面桃花』	○			◎	○	a:場面や登場人物の状況を読み取ろうとしている。 d:文章の展開を理解するとともに、作品の主題を読み取っている。 e:句法、語法の基本を理解している。	a:行動の観察 d:記述の確認及び分析 定期考査 e:行動の観察
	漢文編第二部 史伝一	教材: 『十八史略』 「乱世之姦雄」 「進遇於赤壁」 『三国志』 「三往、乃見」	○			◎	○	a:それぞれの場面に描かれた人物像を読み比べようとしている。 d:登場人物の言動や心理などを的確に読み取っている。 e:漢文を読むに必要な句法、語法を身に付けている。	a:行動の観察 d:記述の確認及び分析 定期考査 e:行動の観察 定期考査

1学期	センター試験問題演習	平成21年本試 教材:『一本菊』『壮悔堂文集』 平成21年追試 教材:「野守鏡」「楊園先生全集」	○			◎	○	a:過去に出題されたセンター試験について、その出題の傾向を理解しようとしている。 d:文章の展開を正しく追い、主語・述語のつながり、修飾・被修飾のつながり、比喩表現、和歌について正しく理解できている。 e:正解に到るに必要な古文、漢文の知識を身につけている。	a:行動の観察 d:記述の確認及び分析 e:課題の提出
2学期	古文編第二部 物語一	教材: 『源氏物語』 「廃院の怪」 「明石の君の苦悩」 「夢の浮橋」	○			◎	○	a:物語の内容を理解するとともに、『源氏物語』をより深く知ろうとしている。 d:登場人物の心情を、それぞれの場面に応じて読み取っている。 e:敬語についての知識を確かのものにしている。	a:行動の観察 記述の点検 d:記述の確認及び分析 定期考査 e:定期考査
	古文編第二部 物語二	教材: 『大鏡』 「道長と詮子」	○			◎	○	a:登場人物の境遇を読み取るとともに、歴史物語の特徴を理解しようとしている。 d:登場人物の人間関係や心情を読み取っている。 e: 形の上で紛らわしい語を文法的に識別できている。 敬語についての知識を確かなものにしている。	a:行動の観察 記述の点検 d:記述の確認及び分析 定期考査 e:定期考査 小テスト
	センター試験問題演習	平成22年本試 教材:「恋路ゆかしき大将」「野鴻詩的」 平成22年追試 教材:「怪しの世がたり」「初潭集」 平成23年本試 教材:「保元物語」「金華黄先生文集」 平成23年追試 教材:「いはでしのぶ」「宋史」	○			◎	○	a:過去に出題されたセンター試験について、その出題の傾向を理解しようとしている。 d:文章の展開を正しく追い、主語・述語のつながり、修飾・被修飾のつながり、比喩表現、和歌について正しく理解できている。 e:正解に到るに必要な古文、漢文の知識を身につけている。	a:行動の観察 記述の点検 d:記述の確認 定期考査 e:定期考査
	漢文編第二部 文章	教材: 『赤壁賦』	○			◎	○	a:この文章に見られる筆者の人生観を理解しようとしている。 d:情景や叙情の描写の美しさを読み味わっている。 e: 漢文を読むに必要な句法、語法を身に付けている。	a:行動の観察 d:記述の確認 e:定期考査 小テスト

		教材: 『師説』	○			◎	○	a:筆者がこの文章を書いた意図を理解しようとしている。 d:「師」について、筆者がどのように考えているかを読み取っている。 e:漢文を読むに必要な句法、語法を身に付けている。 唐宋八大家について理解している。	a:行動の観察 記述の点検 d:記述の確認 定期考査 e:定期考査
2学期	センター試験問題演習	平成24年本試験 教材:「真葛がはら」「西＊瑣録」 平成24年追試 教材:「住吉物語」「山陽遺稿」 平成25年本試 教材:『松陰中納言物語』『張耒集』 平成25年追試 教材:「折々草」「四溟詩話」	○			◎	○	a:過去に出題されたセンター試験について、その出題の傾向を理解し、対応しようとしている。 d:文章の展開を正しく追い、主語・述語のつながり、修飾・被修飾のつながり、比喩表現、和歌について正しく理解できている。 e:正解に到るに必要な古文、漢文の知識を身につけている。	a:行動の観察 d:記述の確認及び分析 e:課題の提出
3学期	センター試験問題演習	平成28年本試 教材;「今昔物語集」「抱経堂文集」 平成29年本試 教材:『木草物語』『白石先生遺文』 平成29年追試 教材:「海人の刈藻」「鷗陂漁話」 平成30年追試 教材:「鳥部山物語」「日知録」	○			◎	○	a:筆者の主張を通して、自身の学びについて考えを深めようとしている。 d:叙述内容を整理して、筆者の学問ついての考えを読み取っている。 e:形の上で紛らわしい語を文法的に識別できている。国学の流れを理解している。	a:行動の観察 記述の点検 d:記述の確認及び分析 定期考査 e:定期考査
	古文編第二部 評論	教材: 『玉勝間』 「師の説と違へること多く」 『源氏物語玉の小櫛』 「もののあはれ」	○			◎	○	a:筆者の主張を通して、本居宣長の思想などについて考えようとしている。 d:叙述内容を整理して、筆者の述べる内容の意義を読み取っている。 e:「もののあはれ」について考えを深めるとともに、国学の流れを理解している。	a:行動の観察 記述の点検 d:記述の確認及び分析 定期考査 e:定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:話す・聞く能力　　c:書く能力
d:読む能力　　e:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。